会　議　録

日　時	平成３１年3月１９日（火）１４：００～１６：００
場　所	総合文化センター　視聴覚室
件　名	平成３０年度　第７回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員：有賀秀雄、小栗正敏、羽柴誠、安藤隆宏、酒井周文、安藤徳善、龍頭美雪、三浦晶子、永井研、吉田生子、吉村美信 事 務 局：遠藤晶子（社会教育課課長補佐）、野田祐作（社会教育課主査）
議　題	**１　開会の言葉（小栗正敏副代表より）** **２　挨拶（有賀秀雄代表より）** 健康づくりをかねて週５回ほど散歩をしていると、マンサクからロウバイ、梅と咲く花の種類が色鮮やかに変わってゆき、季節のうつろいを感じる。ただ、今年は花粉が多く寒暖差も大きいので、委員のみなさんも体調にはご注意願いたい。 平成３０年度最後の会議となったが、これまでみなさんのお力添えがあってやってこられたと思う。感謝したい。吉村校長先生におかれては、今回をもって社会教育委員をご退職されるが、前回釜戸公民館で開催した社会教育委員会でも大変貴重なご意見やありがたい提案をいただいた所である。「まとめの年」と位置づけられた次年度の活動につなげられたら、と考えている。留任される委員のみなさんには、引き続きお力添えを願いたい。 **３　議題** （１）　平成３０年度瑞浪市中央公民館事業報告 委員：自主事業の集客率がのきなみ７０～９０％台という水準の中で、一つだけ４０％台で、今ひとつ振るわなかったのかな、という印象を受ける事業がある。これについて原因分析等はされたか。 担当者：集客率の良し悪しは、どうしても招聘した有名人等の知名度による所が大きい。様々な場で宣伝するなど、事務局として考えられうる手は打ち尽くしたつもりではあるが、結果を真摯に受け止めている。 委員：当該事業で招聘した有名人はテレビにも出ており、決して知名度が低いわけではないと思う。内容と市民の関心とが一致していなかったのかもしれない。 委員：担当者の推察どおり、招聘した有名人等の知名度や興行の内容によって集客力は大きく変わる。加えて、瑞浪ではロコミの力も強い。日吉公民館では昨年度、映画の上映会を行った。日吉中学校の閉校にからんで学校に関係する映画を選んだが、一度見た人がまた来るという、いわゆるリピーターもいて、盛況だった。 委員：今年度中央公民館で実施された自主事業の１つで、自分自身「ぜひ行ってみたい」と思うものがあった。ただ、とても人気のある方の興行だったので気づいた時には「もうチケットは完売してしまっているだろうな」とも思われ、結局ためらってしまった。市民の方は、チケットの売れ行きについてどのように確認しているのか。 担当者：チケットぴあで販売されている分については、インターネットで確認することができる。電話等で直接事務所に問い合わせをされる方も多い。 委員：中央公民館では売り切れでも、コミュニティセンターの販売分はまだ残っていると

いうこともあるのではないか。問い合わせの際には、それも含めて情報提供できると良い。また、集客率をデータ化し、人気のあった興行を翌年度以降に２度、３度、呼んでも良いのではないだろうか。

委員：よほどＰＲの工夫をしていかなければ、来場者を集めるのは難しいことだと思う。事業を行う以上、集客向上のための努力を常に行わなければならない。

（２）　市から補助金を受けている社会教育関係団体の取組（事務局）

①　瑞浪市文化協会

委員：市の補助金について、収入決算額が予算額より５万円多いが、支出の部においては市返還金として８万円支出している。これは、当初予算立てしたより５万円多く多く補助金をもらったが、結局使わなかったから返還したということか。

担当者：文化協会で実施する事業について、予算策定後に計画変更があった。自己財源にて増収の見込みがないため、計画変更後の試算に基づき補助金を申請した。しかし、経費節減等に努めた結果、実際には当初の予算内で収まった。

委員：通常、市の補助金は当初予算以上に交付されないものである。補助金を受け取ったが結局執行しなかった、というのは、勿体ない気がする。

委員：前年度の決算実績をふまえて次年度予算が策定されているか。予算書に前年度の決算額も記載されていると、どのような根拠で新年度の予算立てがされているのかが一目で分かりやすい。

委員：総会費の予算執行率が低いが、経費を節減したのはこの部分か。

担当者：総会費に限らず、全般的に節減に努めた。

委員：収支に関する詳細の記載が少ないと、数字だけ見ていてもチェックが難しい。

担当者：次年度以降、各収入・支出の内訳をより詳細に備考欄に表記するかどうかは、文化協会と相談して決める。なお、会計監査の際には別途内訳詳細も提示している。

委員：前年度執行率の低かった総会費について、次年度も今年度と同額で予算化されている。この理由は、しっかりと説明できるようにしておいた方がよい。

委員：支出の部にある助成金とは、どういった団体に交付されているものなのか。

担当者：助成金の交付について、適正な申請のあった加盟団体に対してである。全ての文化協会所属団体に対して交付されてわけではない。

②　瑞浪市子ども会連合会

委員：支出を見ると、瑞浪市ども会連合会の事業の中でも「インリーダー研修会」が最大の事業になっていると思う。大きな予算をかける分、レクリエーションだけでなく、安全注意力やリーダーシップ等、多様な能力を培う場とできないか。

担当者：インリーダー研修会は、会場へ向かうバスのレンタル料や昼食（カレーライス）の野外炊事に係る食材費、燃料費等が発生するため支出が大きい。その費用は瑞浪市子ども会連合会の会費だけでなく、市からの補助金や安全会からの補助金、参加者の自己負担金等を充当してまかなっている。収支の大きさでは他事業より抜きんでて見えるが、「子ども広場」や「ドッジボール交流会」も同等以上に参加者の多い事業で、瑞浪市子ども会連合会の中核事業である。

　なお、ご指摘のとおり、インリーダー研修会には多様な能力を培う場となるよう計画している。午前中のプログラムでは危険予知トレーニングを行うなど、子ども会の次期リーダーとして必要な資質を総合的に養う場である。

委員：野外でカレーライスを作るのも、危険予知トレーニングの実践研修と言える。

	委員：ジュニアリーダーは、こうした行事に参加しているのか。 担当者：現在瑞浪市にはジュニアリーダーとして活動している青少年がいない。ただし、子ども会連合会の主要な事業を行う際には、その都度市内の中学校や高校にむけてボランティアを募集しており、これに応募する形式が採られている。今回のインリーダー研修会でも中学生４名の応募があり、参加することとなっている。 委員：やる気のある子ども達が積極的に参加できる体制ができるとよい。 （３）　平成３１年度岐阜県及び東濃地区社会教育の方針と重点（有賀代表） 県の指針「子どもたちが誇りを持てるような家庭や地域を創り上げる」 ①　家庭の教育力向上 ②　地域の教育力向上 ③　各市との連携強化 ・県の実施する研修や資格取得の機会は有効に活用していきたい ・８月２３日開催予定の「社会教育振興協議会研修会」では、瑞浪市社会教育委員会が発表を行うこととなっている。内容を決め、発表資料を作成していく必要がある。 2019 年度岐阜県社会教育委員連絡協議会　運営の方針と重点 方針 ①　地域住民が自ら学び、自ら能力を開発し、生きがいのもてる地域の暮らし・地域のコミュニティを築く社会教育の推進 ②　「学びを深める生涯学習」と「学びを生かして社会・地域づくりに向かう社会教育」の一体化を図り、「絆」で結ばれた地域社会の醸成とその一員として参画する「地域社会人」を育てる。 ③　地域・家庭・学校及び関係機関との連携を一層強化し、「地域学校協働活動」の一翼を担う。 重点 ①　社会教育の組織・体制づくりの促進 ②　人がつながる地域づくりの促進 ③　連携の強化による教育力の向上 ④　研修の充実 （４）　平成３１年度社会教育課の方針と重点（事務局） 方針：ともに学び、成長し、高めあえる社会教育の推進 重点Ⅰ　多様な世代に対応した生涯学習の内容と充実 重点Ⅱ　公民館・図書館による人材発掘と育成 方針：郷土愛を育む文化・芸術の振興 重点Ⅰ　市民が歴史・文化・芸術に触れる機会の充実 重点Ⅱ　後継者育成、文化芸術活動団体の支援 方針：子どもの成長支援のための幼児園・学校、家庭、地域の連携強化 重点Ⅰ　連携による地域の教育力の向上 （５）　平成３１年度社会教育委員会の活動内容及び年間計画（事務局） ①　テーマについて（提案） 「地域・学校・家庭の協働による地域づくりの取組」

	事務局：平成３０年度のテーマ「地域・学校・家庭の協働による地域づくりの取組～公民館活動を通して～」のうち、サブタイトルを取ってはどうか。 委員：前年度の会議の中で、「瑞浪・土岐・明世の３地区は、中央公民館が地区公民館を兼ねていることから、地域と公民館が完全に一体となっている他地区とは異なる事情があり、ひと括りに考えることが難しい。」という意見が挙がっていた。「公民館」という前提をテーマから抜くことで、かえって幅が広がり良いと思う。 委員：「地域・学校・家庭の協働」について、公民館に絞って考えていたところから、視点を広げ、地区ごとの実態に合わせて総合的に考えていくことになると思う。 委員：社会教育委員の視界から公民館を除くという趣旨ではなく、より広範に選択肢を広げるという意味であれば、サブタイトルを削除することには賛成である。 委員：瑞浪・土岐・明世地区については、地区公民館に代わるものとして集落支援員が挙げられる。集落支援員と社会教育課の間に連携はあるか。地域づくりに関する行政機能は西庁舎（市民協働課）に集約されているように見られるが。 事務局：直接的な接点は少ないが、連携を考えていく時期には入っていると考える。 委員：テーマの中に地域の目指すべき姿を入れた方が良いのではないか。地域、学校、家庭の連携によって地域づくりを進めるという方法論は読み取れるが、目指すべき姿が見られない気がする。これまでの協議では「誇りを持てる地域づくり」、「活力ある地域づくり」といった意見があったが、どんな出口を目指すのか。 委員：市の目あては「みずなみ教育プラン」に示されているとおりである。社会教育委員は、市の目あての実現に向けて方法論を提案することだと考える。今、社会教育委員の提言が求められるのは、目指すべき姿ではなく、目指すべき姿に向かう道筋ではないか。目指すべき姿は、市の計画や地域の意思決定に委ねてはどうか。 委員：「みずなみ教育プラン」では５本の“柱”が挙げられているが、社会教育委員の提言がこの内のいずれに資するものであるか、ある程度ねらいを絞った方が良いのではないか。向かっていく先がボヤっとしたままであると、何もしなくて良いことになってしまう恐れがある。 委員：瑞浪市が目指す「子どもの姿」は「みずなみ教育プラン」の中に示されている。また、その実現に向けた“基本的視点”の項には、「幼児園・学校、家庭、地域の連携なしには実現できない。」と記載されている。では、その連携をどのように進めればよいのかが、社会教育委員の具体的研究課題だと言えると思う。 委員：社会教育委員の職務は、市の定めた目標や計画の達成に対し、具体的な道筋を提案するという解釈でよろしいか。 委員：計画の策定段階にあっては、市の目標や計画自体について提言を行っていくこともありうるが、現在は市が定めた１０か年計画の中間年にあたるため、その実現に向けた具体的な提言をしていくべきだと考える。 事務局：「誇りが持てるまちづくり」「活力あるまちづくり」は、今年度の社会教育委員会の活動において、地域・学校・家庭の連携のあり方を協議する中で発生したものである。社会教育委員が地域や子どもに対して真に願うことでもあるので、こうした協議過程自体も含め、次年度以降「地域、学校、家庭の連携」に向けた方法論を提言していく中で活かせたらと思う。 ②　活動内容及び年間計画（別紙） 事務局：地域学校協働活動支援プログラム実施要項が交付された。その中のメニューに、岐阜大学の教員や学生を派遣し、地域学校協働活動の推進を目指す自治体を支援

	するための出前講座を無料で受講できるものがある。平成３１年８月６日開催予定の第３回社会教育委員会に、この出前講座を依頼してよろしいか。 委員：市社会教育委員の活動テーマと合致しており、県も新設したばかりの事業ということで力を入れて推進しているだろう。出前講座を受けることには異論ない。ただし、平成３１年８月２３日開催の東濃地区社会教育振興研修会直前の定例会であるため、発表の打ち合わせと合わせ、第３回社会教育委員会は長時間の会議になることは間違いない。１３時からの開催とすることも検討してほしい。 委員：東濃地区社会教育振興研修会における発表に向けての取り組みが必要となるため、次年度は本当に時間が無い。研修会における発表内容や役割分担は、ある程度、本日この会議の中で決めてはどうか。 事務局：方向性としては、東海北陸社会教育研究大会（平成３０年１０月）において発表した内容をベースにしてはどうか。 委員：今回の発表時間は２０分のため、内容を精選する必要がある。加えて、東海北陸の発表以降の活動も盛り込む必要があるだろう。 事務局：次年度の社会教育振興協議会では、瑞浪市の社会教育委員代表が東濃地区の副会長になり、さらに社会教育委員部会の委員長となる。すなわち、東濃地区社会教育振興研修会において瑞浪市の社会教育委員代表は当該会議の主催者側で参加することとなり、（今年度１０月の東海北陸発表のように）代表が発表することができない。発表者を決めておく必要がある。 委員：長年にわたって社会教育行政に携わり、過去からの流れをよく理解している人が良いのではないか。 委員：若い方に元気よく発表してもらうのが良いのではないか。 委員：具体的な人選は会長、副会長に一任したい。 委員：経歴や年齢を勘案し、会長・副会長で人選の上、打診することとする。 委員：前回の会議から本日の会議までに、市内の学校とコンタクトをとられた委員がいれば、報告を願いたい。 委員：新たな学校訪問の報告ではないが、これまで学校側から願いとして聞き取ったことをまとめてみると、花壇や庭木の手入れなど、環境整備に関することが多いと感じた。環境整備は学校側の切実な願いであるとは思うが、学校が地域に願うことがあるように、地域が学校に願うこともある。土岐地区では史跡を拠点にした地域整備が進めているが、学校も周知に協力してもらいたい思いがある。地域が学校をサポートするだけでは「連携」とは言えない。連携は、地域と学校の相互の利益になる分野で促進することが望ましいのではないか。 委員：学校の要望する環境整備は、本当に深刻な願いだと思う。各幼児園の状況では、地域との連携が進んでいる園となかなか出来ない園とがある様子。例えば幼児園で取り組んでいる畑づくりでも、地域の指導者を得られている園もあれば、そこまでに至っていない園がある。地域のお年寄りが遊びに来たり、行事を手伝ってくれたりする園では、子どもたちが普段見せない笑顔を出したり、隠れた力が引き出されたりこともあったりする。地域と教育とが関わりを持つことで生まれるプラスだと言えるだろう。また、ある主任児童員の話では、園児の登下校に合わせて散歩してくださる方がおり、園児の見守りが強化されてとてもありがたいとのことだった。 委員：学校評議員を務めている関係で、年に２回、教頭先生の話を聞く機会がある。

	最近では不登校の問題、特に、海外から来た子が日本の授業についていけず、不登校になる例があるとのこと。外国語の話せる語学支援員に助けてもらえたら本当にありがたいと話されていた。働き方改革の求められている学校は多様な課題を抱えているとは思うが、①子どもをどのように育てるのか、明確なビジョンを持ち続けられるか、②国際化が進む中で外国から来た子どもたちをどう教育するか、の２点が、特に大きな課題だと考える。 委員：瑞浪小学校、瑞浪中学校を訪問した。瑞浪小学校では、学区内の人口規模の大きさがネックとなり、ボランティアの取りまとめ等が困難であるという話を聞いた。各自治会等から個別の要請があった場合には募集をかけているが、能動的に派遣する体制はない。瑞浪中学校は、積極的にボランティアを募集、派遣する体制が何年もかけて作られているようだった。学校側が求めている支援としては、やはり環境整備に関することが多いよう。例えば「落ち葉がひどいので、地域の人々に拾って持って帰ってほしい」という要望があった。それぐらいであれば、気軽に協力できるのではないか。児童生徒数が多いことに絡んでは、「配布する文書の印刷が大変」という意見もあった。学校側が必要としている助けを探りながら、実際にどうすれば支援していけるのかを考えていきたい。例えばテストの採点業務を支援する、とした場合には、保護者の理解が必要になってくるなど、支援にあたっては新たな課題が出てくるだろう。 地域による子どもたちの登下校の「見守り」は、防犯上必要なことだと思うが、一人でやっていては見守る方が不審者扱いを受けかねない。集団で連携して動き、見守っているのだと明示できるような組織作りができないか。瑞浪中学校では、町民会議の主導で“見守り隊”のステッカーを配布したと聞いた。このステッカーの貼られた車が学区内を走ることで、相当に広範囲が見守りの目によってカバーされていると思う。街角の定点で待つよりも、車に乗って広範囲を移動する方が、子どもに出会う確率は格段に上がるだろう。 （６）その他 ・美術展運営懇談会の担当を変更。 ・東濃地区社会だよりの配付。 ・地域学校協働活動推進員等育成研修についての案内。参加者は後日決定。 ・地域学校協働活動支援プログラムについて実施要領の確認。 ・岐阜県社会教育委員連絡協議会会報「ぎふ社教委」の紹介。 ・瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議発行「ちょっといい話８」の配付 **４　閉会の言葉（小栗正敏副代表より）**